

トイレが変わる、トイレで変わる

学校トイレの 挑戦!

学校トイレの
最新現場事例 2015

地域コミュニティや防災拠点のための
体育館・屋外トイレ

2014年度全国自治体アンケート結果
やってよかった!
学校のトイレ改修

養護教諭トイレ座談会

学校トイレと子どもの健康

NEW

特別支援学校・幼稚園・保育園の
改修事例

2014年、日本を訪れる外国人旅行者は1341万人を超えました。多くの外国人が日本の最先端の公共トイレ空間に触れ、その技術や快適性に共感していると聞きます。日本の公共トイレは、経済と建築・設備技術のめざましい成長とともに、世界に類を見ない発展を遂げてきました。建築や施設運営、清掃メンテナンスに関わる多くの方々の努力に支えられ、すべての使用者の笑顔に育まれたトイレの存在は、すでに日本の文化と言ってもよいでしょう。

今回取材させていただいた横浜市が洋式化を進める背景の一つに、外国人児童・生徒の増加があります。横浜市立潮田小学校では、一割強の児童が外国籍、もしくは外国につながる子。教育環境におけるグローバル化も急速に進んでいます。日本の子どもたちからも敬遠される和式便器は、外国人児童にとっては見たことすらない存在です。今、洋式化をはじめとするトイレの環境改善を進めることは、次世代への投資ともいえます。

一方、ある外国人留学生の方は、日本の子どもたちによる掃除や給食当番の様子を目にし、欧米ではまず見ることがない光景だと驚いています。しかし同時に、「この教育が、災害時の日本人の落ち着いた行動につながっているのではないか」との感想を聞いたことがあります。

本当の日本のトイレの美德とは何か？ 優れた建築・設備技術とトイレを皆で大切に使う気持ち——。日本が培ってきたトイレ文化を世界に広げていく時代も近づいているのではないのでしょうか。

学校のトイレ研究会 事務局長 河村 浩

学校トイレの挑戦! 2015

CONTENTS

No.18

内閣官房「暮らしの質」向上検討会で トイレに関する勉強会を開催

2015年2月、内閣官房「暮らしの質」向上検討会第1分科会にて、トイレに関する勉強会が開催されました。学校のトイレ研究会からも、さまざまな事例をご紹介しながら、学校トイレには災害時に避難者の排せつの尊厳を守る義務があること、そして、優れた空間設備・清掃メンテナンス体制・教育の3つがうまく合致したとき、学校トイレは地域や子どもたちの財産となることをお伝えしました。

内閣官房 有村治子大臣をはじめ、内閣官房や有識者の方々と、老朽化によりまだまだ劣悪なトイレ環境が多いことを確認し合いながら、限られた財政の中でいかに学校生活という「暮らしの質」を向上させていくかを真剣に話し合いました。今、国も確実に現場視点で動き出しています。



内閣官房「暮らしの質」向上検討会第1分科会での勉強会風景。



勉強会終了後の一コマ。右から有村大臣、河村、古川。

3 学校トイレの最新現場事例

- ・新潟県糸魚川市立糸魚川小学校
- ・愛知県豊川市立東部小学校

10 地域コミュニティや防災拠点のための 体育館・屋外トイレ

- ・神奈川県横浜市 / 潮田小学校、神奈川小学校
- ・埼玉県松伏町 / 金杉小学校、松伏中学校
- ・富山県南砺市 / 井波中学校
- ・愛媛県西条市 / 神拝小学校、飯岡小学校

18 養護教諭トイレ座談会 学校トイレと子どもの健康

20 2014年度全国自治体アンケート結果 やってよかった! 学校のトイレ改修

23 特別支援学校の改修事例

- ・大阪府立西浦支援学校

27 幼稚園・保育園の改修事例

- ・東京朝鮮第六幼初級学校
- ・江東湾岸サテライトナーサリースクール有明



01 学校トイレの最新現場事例2015

新潟県糸魚川市立

糸魚川小学校



糸魚川駅にあった赤レンガ車庫を思わせる学校正面。雁木造りも導入。



中庭には芝生が植えられ、舞台にもなる外階段を設置。



中庭に面した広い多目的ホールは子どもたちのいこいの場。

子どもの居場所としての
快適性にこだわり抜いたトイレ
ワークショップで
新校舎の考え方を共有

「久しぶりに糸魚川小学校に行ったら、低学年トイレに『トイレで遊ばないこと』と書いてありました。逆に我々の意図通りに使われているなど思いました」と笑うのは、同校のトイレ設計等を手がけた設計事務所ゴンドラの小林純子代表です。同校は誰にとっても居心地のいい学校を目指し、子どもたちが思い思いに過ごせる場づくりの工夫が凝らされています。同校の開校は明治5年。長い歴史の中で、校舎は幾度かの改修がなされ、現在の新校舎がで

きる前は、築50年ほどの建物が建っていました。同校の靄本修一校長は、当時を振り返り、「すっかり老朽化し、特にトイレはひどい状況でした。窓が少ししかなく真っ暗。臭いがかもって、便器はすべて和式でした。『子どもが怖がり、学校のトイレに入れない。何とかしてほしい』と教育委員会に直訴する保護者の方の姿もありました」と言います。

今回の新校舎の構想は平成21年に開始。プロポーザルコンペが実施され、長澤悟東洋大学名誉教授監修のもと、創建築設計事務所、設計事務所ゴンドラ、近藤道男設計室のチームが選ばれました。その後、地域を含め

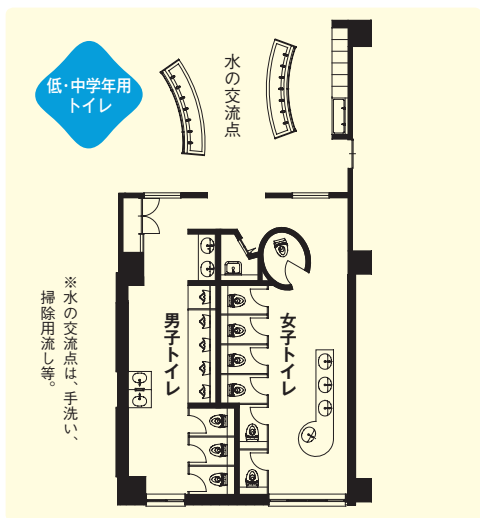


成長に合わせて高さを変えた小便器は、清掃性を配慮した壁掛け式。恥ずかしがる子には緩やかな仕切り板も。正面開口部以外に洗面台の足もとにも窓を設置。



トイレから出たところにある洗面台。大きな鏡を設置し、空間を広く見せている。裏側には雑巾掛けのバーが設置されている。

トイレの外の洗面台は、手を洗うほか、歯を磨いたりするのに使う。廊下との仕切りはあえて設けずに床材を変えている。



教室間にあり、どこからも行きやすい

どこの教室からも行きやすいよう建物の中央部にトイレを設置。光を取り込むために外光が取れる場所を選んだ。



た「みんなの夢を育む学校」を実現するために、市職員、学校職員、地域住民、PTA、設計チームが参加するワークショップを4回開催。新しい学校の基本的な考え方を決めていきました。

工事は、費用を抑えるために仮設校舎を作らず、4期に分けて、空いている教室を利用して、少しずつ解体しては建てる方法が取られました。5年及以上工事の間、週一回は必ず、学校側と工事関係者間で情報交換を行い、子どもたちの安全を確保するとともに、授業に支障がないようにしました。

トイレのおこもり部屋で 元気を取り戻して

こうしてできあがった新しい



大便器も掃除がしやすいように壁掛け式を採用。新校舎ではすべて洋式便器となっている。

学び舎は、青々とした芝生の中庭を囲むように渡り廊下や校舎が配置されています。中庭から廊下やオープンスペースに陽が射し込み、校舎全体が明るく心地よい空間となっています。

「成長段階の小学生には、学年ごと、クラスごとに集まれる場所はもちろん、数名で遊べる場所、本を読むための場所など、いろんな居場所が必要。その考えのもと、あちこちに子どもたちが快適に過ごせる仕掛けを作っています」（小林さん）
トイレにもこの考え方が取り入れられています。例えば、低・中学年用トイレには、通称「おこもり部屋」という円柱型ブースを設置。地元産の杉で囲まれ、癒しの空間といった雰囲気です。「何かあったらここに数分こ



一人でゆっくりとこもりたい児童に配慮して、木材で覆われたリラックスできるブース。

もって、落ち着きや元気を取り戻してほしいと考えて作りました」（小林さん）

また、トイレが楽しい場でもあるように、空間にカラフルな色を使い、高学年用トイレでは空間のデザインそのものも変えています。特に男子トイレの小便器には、便器のスペースごとに専用窓を設け、低・中学年にとつて「高学年になれば、あそこが使える」といった憧れの場になるような作りを施しました。

「人の居場所の中でも、水まわりは交流の場の一つ。水のある場所には自然と人は集まります。井戸端も給湯室もそうですし、トイレもしっかりです」

排せつの場に加え、交流の場の役割も果たすトイレに求められるのは快適性。小林さんは、

壁には県産の杉を使って。乾式と湿式の両方の床掃除ができるように床はタイルを採用。

水栓金具は教育的な配慮からレバー式に。





トイレの外の洗面台は男女共用で誰でも使える。手を洗いながら友人との話もはずむ。



トイレ内にも外にも洗面台があるので、児童が集中するときの混雑も緩和できる。



カラフルな高学年用トイレ。気分や曜日によって使う色を選ぶ楽しさがある。



竣工当初は、設計者等からメンテナンスの方法を聞いてきれいに保つことができても、職員や児童など、人が替わる際に、その方法が受け継がれず、いつのまにか管理できなくなってしまう。

竣工後に会議を定例化 永続的な管理を目指す

「その快適性は外からの光が作り、窓を作ることで快適性は将来的にも還元しやすくなる」と言います。

光があると汚れにも目が届き、窓があれば換気ができて臭いもこもりません。同校のトイレにも、床から天井まで届く大きな開口部が設けられました。外光が降り注ぐトイレ内は、清潔感に満ちあふれています。



地域開放用女子トイレ。大人が使うトイレは、木の素材を活かすつつ白くシンプルにまとめた。

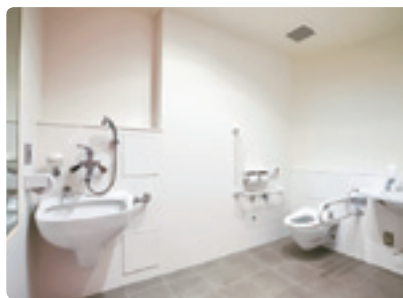
この仕組みによって、校舎はもちろん、新しいトイレも快適さを維持しながら、未来へと引き継がれていくことでしょう。

まうという声を耳にします。トイレについても同様です。

そこで、霍本校長は、新校舎設立当時の快適性を保つたり、学校づくりについて考えていく機会を永続的に保つ新たな仕組みを作りました。「夢を育む学校づくりミーティング」です。

「年に一度、教職員、保護者、地域、教育委員会、設計監理、施工会社が一堂に会し、施設の維持や充実について、情報交換する。その機会を定例化します。竣工後も、設計監理や施工会社の方々から学び続けることで学校を育んでいきたいです」

- DATA**
- 竣工年月 / 2014年6月
 - 所在地 / 新潟県糸魚川市 中央1-2-1
 - 児童数 / 474名(2014年)
 - 施主 / 糸魚川市
 - 設計・監理関係 / 監修 長澤 悟(東洋大学名誉教授) 設計 創・ゴンドラ・近藤設計特定共同企業体
 - 施工 / 猪又・谷村特定共同企業体



さまざまな人が使う多機能トイレは、オストメイト用設備なども充実。



赤い円柱の中は多機能トイレ。地域の人も使うため、デザイン性とわかりやすさを兼ね備えて。



昭和38年、睦美、麻生田、三上の3つの小学校が合併して誕生。



トイレの入口には男女共用の大きなアイランドタイプの洗面台が。



廊下とつながった多目的ゾーン。オープンな図書館はみんなのいこいの場。

みんなの夢がふくらむ、 明るく楽しい学校トイレ

教職員トイレも 使い勝手を追求

休み時間を知らせるチャイムが鳴ると、大勢の子どもたちがトイレ前の洗面台に集まってきました。トイレに来た子どもも、手を洗いに来た子どもも、男女共用の大きなアイランド式洗面台を囲み、いつのまにか隣の子とおしゃべりを始めます。ワイワイガヤガヤ、トイレ前の空間は子どもたちの恰好のコミュニケーションの場になっています。

「これまでのトイレのイメージは行きたくない場所。そうではなくて、行きたくない、楽しいトイレにしたいと思いました。そのため、壁や鏡を見ながら黙々と手を洗ったり歯を磨いたりする横並びの洗面台をやめ、友だちの顔を見る時間を増やせる大きさの丸いアイランド式に。予想通り子どもたちのたまり場になっていたのでうれしいです」
(市教育委員会・塩野谷さん)

ほかに、トイレを楽しくするための演出として、ブースの扉をカラフルにしたり、真っ白な壁の上部に木質を取り入れたりしました。かつてのトイレにあつた無機質な冷たい印象は払拭され、子どもたちが笑顔になるトイレが完成しました。

職員用トイレも、ブース内に棚が設けられたり、温水洗浄便座が採用されるなど、使い勝手

学校トイレの最新現場事例2015

愛知県豊川市立

東部小学校



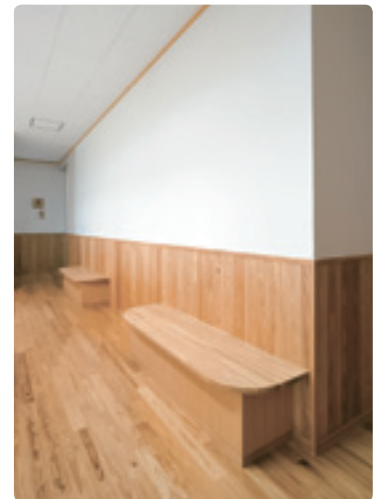
女子トイレはドアの色をカラフルに。お気に入りの色のブースを選べるのが楽しい。



ケガをした子どもが使える手すりつきブース。温水洗浄便座の操作もわかりやすくリモコン式。



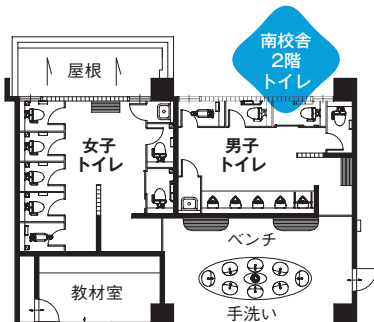
トイレ空間の天井部に木質を配するなど、「トイレらしくない空間」を目指した。



洗面台の後ろには大きな木製ベンチ。男子寄り、女子寄りと2つが設置されている。



乾式清掃で水を使うことが少ないため、掃除用流しは浅いコンパクトサイズを。



トイレの前に男女共用のベンチやアイランドタイプの洗面台を配置。男子や女子に関係なくみんなが集まるコミュニケーションの場所になっている。



教職員や来客用トイレはドアの外側にも仕切りをつけて視線を遮る工夫が。



保健室前トイレは荷物が置ける棚を設置。



きれいなトイレを維持していきますと、豊川市立東部小学校・竹田寛校長。



トイレは作った後が大切と語る豊川市教育委員会・塩野谷宜和さん。



多機能トイレは職員室や保健室に近い場所に配置。フォローが必要な場合、すぐに対応ができる。



男性職員用トイレ。ブースの仕切りの天井部分を開け、外光が空間の奥に届くよう配慮。



女性職員用のトイレ。ドアと床とのコントラストを強くして、落ち着いた雰囲気デザインのデザインに。



職員トイレと並んで設置された多機能トイレ。腰高まである板張りが温かい印象を作っている。

東部小学校は、老朽化が進んでいたため、計画の中でもいち早く建て替えをすることになりました。今後建て替えをする小学校のモデルという位置づけです。工事は2013年6月からスタート。3期に分け、仮設校舎を建てて教室を移動し、旧校舎を壊して、新校舎を建てていきます。14年の秋に1期目の工事

新校舎から卒業させるため夏休みに引越す

豊川市では2012年から学校の環境改善に注力し、特に14年度からは、7年かけてトイレの改修を行う計画です。子どもたちの教育にとって、環境改善が欠かせないとの考えからです。トイレは床の乾式化と大便器の洋式化を改修の柱としています。

「古く汚れたトイレでは、児童だけでなく先生もストレスを感じます。そのストレスを軽減したり妊娠中の先生方のトイレの不安をなくすため、職員用のトイレにもコストをかけました。環境を変えることで先生方がいい方向に変われば、児童も変わりますからね」(塩野谷さん)

「古く汚れたトイレでは、児童だけでなく先生もストレスを感じます。そのストレスを軽減したり妊娠中の先生方のトイレの不安をなくすため、職員用のトイレにもコストをかけました。環境を変えることで先生方がいい方向に変われば、児童も変わりますからね」(塩野谷さん)

「工事が終わる直前の夏休み中に、教職員がダンボール500個ほどの荷物を梱包し、新校舎へ引越しをしました。工事のため冷房も使えず、トイレも仮設といった状況でした。ですが、プレハブで授業を受けていた6年生をどうしても新校舎から卒業させてあげたかったので、教職員も協力して夏休みの作業を進めました」(同校・竹田校長)

新しい校舎やトイレは先生や児童たちからも大好評です。「和式便器が怖かったのか、以前はトイレが間に合わずに、失敗してしまう子がいましたが、洋式になった今はありません。今後は、乾式になったので、職員もメンテナンスの方法を学び、それを子どもたちもしっかりと伝えて、維持していければと思っています」(竹田校長)

DATA

- 竣工年月 / 2014年8月(第1期)
- 所在地 / 愛知県豊川市三谷原町石坪1番地の1
- 児童数 / 480名(2014年)
- 施主 / 豊川市教育委員会
- 設計 / 鈴木健雄設計室
- 施工 / 波多野組

地域コミュニティや

防災拠点のための

体育館・ 屋外トイレ

学校施設の重要な役割の一つとして「地域コミュニティや防災の拠点」があります。学校施設は、地域住民の生涯学習、文化、スポーツ活動の場であり、そして災害時避難所として防災機能の強化をはかり、地域コミュニティの拠点となるよう公共施設の複合化も有効であるとしています。今回、研究会でも各地の学校で体育館トイレや屋外トイレを現場取材し、その重要な役割を再認識してきました。



横浜市

KANAGAWA

神奈川県

01

和式便器が使われていない状況が明らかに

家庭では洋式の大便秘器なのに学校のトイレは和式。そのためトイレに行きたがらない子どもがいます。特に外国人登録者数が年々増えている横浜市では、外国人の児童生徒数が増加。和式便器を見たことさえない子どもたくさんいます。洋式化が進んでいない学校では、洋式ブースに行列も。こうしたことから、市ではトイレの洋式化を急ピッチで進めています。

「2014年度は、30校についてトイレ改修を行う計画でしたが、緊急性を要するため、洋式化を進める15校を優先しました。学校への調査によって、和式があまり使われていない状況も明らかになりましたので、現

トイレ改修を進める中 体育館トイレにも着目し、 さらに洋式化を推進

在は、洋式化をスピードアップして進めています」(市教育委員会・川崎修司課長)

また、同市では、約500校ある小中学校のうち、小学校340校、中学校104校、廃校等(県立含む)10校が、災害時の防災拠点に。この観点から、トイレ改修に関する基本的な考え方にも変化が表れています。

「これまでは、普通教室のある校舎を優先で改修し、体育館はあまり重視されてきませんでした。多機能トイレについても、特別な配慮が必要な児童生徒の入学などに合わせて整備するという対応でした。ですが、地域のさまざまな方が学校を利用する今、体育館のトイレや誰もが使える多機能トイレの重要性も増してきました。現在は、多機能トイレは校内に最低一つは設置し、できれば体育館に、とい



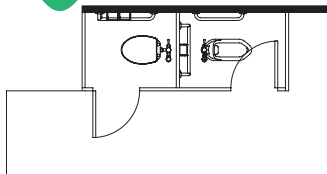
う考え方に変わってきました」
2014年度、横浜市は体育館トイレも先行して、洋式化の改修を行ってきました。

トイレの快適さは 平等であるべき

トイレを洋式化する際、問題になるのはドア。学校トイレは子どもたちがドアに衝突するのを避けるため、基本は内開きです。ドアを手前に開けたとき、

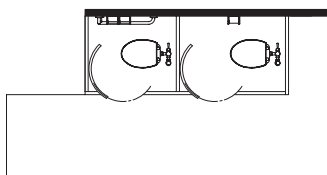
横浜市立 潮田小学校

体育館
女子トイレ



～ 改修前 ～

和式便器は内開き、洋式便器は外開き。動線を遮るちくはくなくなりとなっていた。



～ 改修後 ～

アークスライドドアにより、ブースサイズを変更することなく個室空間と通路をしっかりと確保。

潮田小学校には日本人を含め16カ国の子どもたちが通う。

D A T A

- 竣工年月 / 2014年9月
- 所在地 / 神奈川県横浜市鶴見区向井町3-82-1



入口は段差がなく、高齢者にも安心なつくりとなっている。ブースを改修し、床面のタイルは一部を補修。



ブースのスペースを変えずに和式便器を洋式にするため、ドアは弧を描いて開閉するアークスライド式に。



ドアが外側に開くことがないので子どもに安全。曲線の膨らみで空間の印象もソフトに。



災害時に避難所になることを想定し、誰もが使いやすいようエントランスにはスロープを整備。

D A T A

- 竣工年月 / 2015年2月
- 所在地 / 神奈川県横浜市神奈川区東神奈川2-35-1



地域における学校体育館の役割が高まってきたことから、トイレも含めた体育館の大規模改修を実施。多機能トイレなども充実させた。

横浜市立 神奈川小学校

和式の場合は便器の上を通るので、問題ありませんが、洋式便器の場合、便器にぶつかる可能性もあります。それを避けるためには、ブースのスペースを広げなければならず、トイレの数を減らすことになります。

「限られたスペースで使い勝手をよくし、安全性を高めるため、ドアが弧を描いて開閉するアークスライド式を採用しました」

横浜市では、トイレの改修にあたり、市内の小・中学校にアンケートを実施。洋式便器がわずかに15%しかない学校があることも明らかにになりました。

「全体で見ると、洋式化率は65%ですが、バラツキがある。そのため、これまでは、築年数の古い学校からトイレ改修を行っていましたが、2015年度からは方針を変え、洋式化率の低い学校から改修を進めることにしました。子どもたちが毎日使うトイレの使い勝手は、できるだけ平等にしてあげたいのです。今後3年間でできるよう、洋式化を進めます。限られた予算を上手く使うには、現状をしっかりと把握し、本当に必要とされる場所に予算を配分していくことが何よりも大切なのです」



来校者から褒められる
トイレは生徒の誇り

松伏町には小学校3校と中学校2校があります。耐震化は100%、大規模改修工事についても中学校1校を除き終了。残る1校も大規模改修の設計段階まで済んでいます。
「トイレ改修方針の大きな軸は、床の乾式化、大便器は全洋式。加えて、排せつの場所から憩い

松伏町

SAITAMA

02

埼玉県

地域の利用率も高いため メンテナンスを考え、 掃除が楽な大便器を採用

の場所への転換を図り、子どもたちに親しみを持たれる空間を目指すことです」(松伏町新市街地整備課・後藤秀徳副主幹)

同町の体育館は、災害時の避難拠点施設としてはもとより、地域に開かれた学校施設として日頃から地域開放をしています。不特定多数の人が使うことから、特に体育館のトイレについては、『埼玉県福祉のまちづくり条例』に適合するようにバリアフリー化し、スロープ、多機能トイレが設置されています。

2014年3月に大規模改修を終えたばかりの松伏中学校の体育館のトイレは、地域の利用者も多く、使用頻度も高いことから、快適性配慮のために、温水洗浄便座を全ブースに導入。トイレ掃除は生徒たちが行い、常にきれいに保たれています。



左から金澤校長(当時)、田中稔教頭、後藤副主幹。「体育館がきれいになり、地域の利用者も増えています」(田中教頭)。

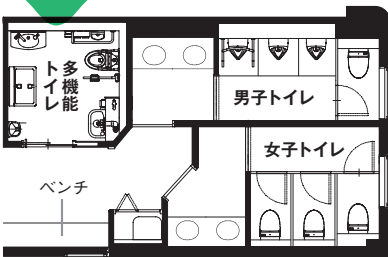
「乾式化によって掃除がしやすくなりました。練習試合でやってきた他校の生徒や、来校された方から、『きれいなトイレだね』と褒められると、必ず、担任を通して生徒たちにも伝えるようにしています。すると、自分の学校の校舎を誇りに思い、掃除を余計頑張ってもらえる。よいスパイラルになっていきます」(同校・金澤勝幸校長・当時)

松伏町立金杉小学校



同町の改修した体育館は「人にやさしく」を掲げ、温水洗浄便座付き大便器がスタンダード。

体育館
トイレ



～ 改修後 ～

ベンチは男女関係なく使える位置に。多機能トイレはオストメイト用設備、ベビーカー、おむつ交換台も完備。

D A T A

● 竣工年月 / 2012年2月

● 所在地 / 埼玉県松伏町大字大川戸3854



温もりを感じる空間にするため、体育館のトイレの壁には県産の木材を多用。多機能トイレの手すりも、視力や平衡感覚の弱い人にもはっきりわかるように目立つ色を採用。



トイレの入口の前には木製のベンチを設置。高齢者も座って待てる。

屋根には太陽光発電装置が。館内には避難所を想定し赤外線暖房器も。



松伏町立松伏中学校



「埼玉県福祉のまちづくり条例」では、学校などの生活関連施設にオストメイト用設備を設けるなど、トイレの整備基準が定められている。松伏中学校もこの基準をクリアしている。



屋根はALC板から鉾板に葺き替えた。



腰の位置まで県産の杉材を使用したトイレ前。



不特定多数の人が使うため、洗面台は自動水栓で衛生面に配慮。ブラウンの天板が木質の空間に調和。



快適性のため温水洗浄便座を採用。操作性のよいリモコンを設置。



廊下からトイレ内までフラット。乾式の床で掃除をしやすく清潔に。

男性用トイレの小便器は壁掛け式で床面の掃除もしやすい。汚れやすい小便器まわりの床は防汚・防臭性の高い陶板を使用。

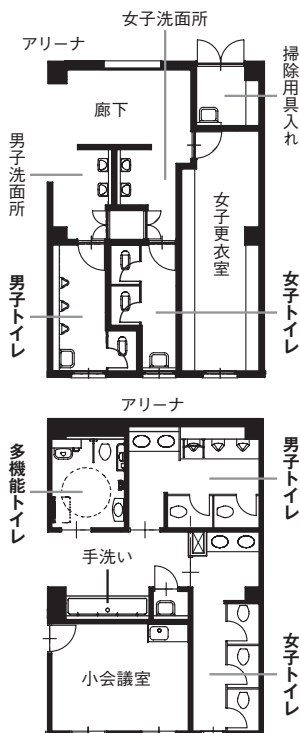
～改修前～

更衣室などがあり、トイレのブースも少なかった。大便器はすべて和式で、床は湿式だったため、臭いがこもりがちだった。

体育館
トイレ

～改修後～

更衣室をなくし、トイレスペースを広げ、洋式化して、多機能トイレも設置。災害時にも使えるよう会議室も設けた。



DATA

- 竣工年月 / 2014年3月
- 所在地 / 埼玉県松伏町大字大川戸1136

南砺市

TOYAMA

富山県

03

休み時間に生徒が集まる人気のトイレ

体育館改修に合わせて 多機能トイレを新設。 意匠を凝らし愛着あるトイレに

便器を採用することで、大便器と手洗器のライニングの高さが揃えられています。床材は維持管理コストの面から、ノンワックスタイプに。

女子トイレは、ブースと洗面台が向き合った位置関係にあるため、「トイレから出てきた人の姿が映り込まないように」との配慮から、細めの鏡を選んでいます。

壁は全面的にメンテナンスのしやすい化粧パネルを採用。白を基調とし、随所にインパクトのある色を取り入れています。井波彫刻の町を意識し、木製の目隠しスクリーンには「座彫り」や「くり抜き加工」が施されています。

設計を担当した鈴木一級建築士事務所の寺岡裕子さんは、「県産材の持つ温かさと目を引く色彩などによって、皆さんに愛着

を持っていただける建物になればうれしいです」と語ります。

その思いは届き、完成した体育館のトイレは、休み時間になると、わざわざ普通教室から訪れる生徒もいるほど、人気を集めているそうです。

嶋田主事は、「これから地域開放が始まるので、一人でも多くの地域の方々に気持ちよく利用してもらいたい」と笑顔で答えてくれました。

アプローチにスロープを設置。エントランスにあった15cmの段差は底上げをして解消。



壁には県産の杉を使用。トイレとの仕切りは天井部を広く開けて、開放感のあるつくり。



女子トイレ内の洗面台前には木製ベンチを設置。荷物を置いたり腰かけたりできる。



汚れが目立つ改修前。校舎も改修予定だが、天井の落下防止対策のため体育館から着手。

改修後は華やかな紅ウコン色の外観に。正面のガラスには、飛散防止のためのフィルムが貼られた。



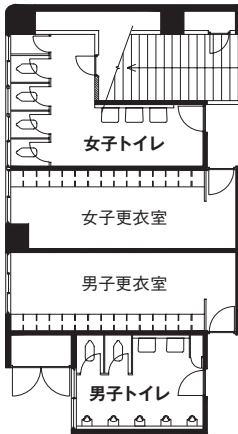
南砺市立井波中学校

壁掛け式の自動洗淨小便器を採用。床全体は乾式清掃方式に。



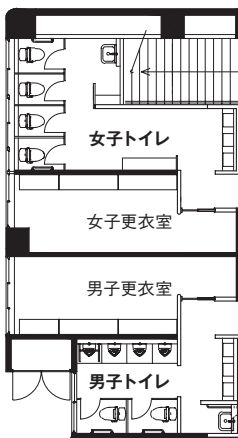
体育館
トイレ

～ 改修前 ～



女子トイレの洗面台はブース正面にあるため、あえて鏡を細く20cm幅に。

～ 改修後 ～



基本的な位置は変えず、男女ともにトイレの入口を廊下側まで延ばして広くした。女子トイレの階段下にはオープンな掃除用具置き場を設置。



大便器は掃除口付きを採用。開口部を広げることにはできないため、床や壁に白を多用することで明るさを確保。



多機能トイレのドアはわかりやすい色に。中の様子がそれとなく感じられるよう円形部分はすりガラスを採用。

DATA

- 竣工年月 / 2015年2月
- 所在地 / 富山県南砺市 井波700番地1
- 生徒数 / 212名(2015年)
- 設計 / 鈴木一級建築士事務所
- 施工 / 辻建設、北川電機商会、ヤマキ工業

多機能トイレはラインの高さが統一されてスッキリ。操作性がよく、電池不要のエコリモコンで、温水洗淨便座も利用可能。

西条市

EHIME

愛媛県

04

老朽化の激しい
男女共用トイレから

スポーツが盛んな西条市。

神拝小学校では体育館やグラウンドを地域の人々に開放し、地域全体でスポーツに取り組み活気にあふれています。飯岡小学校はさらにスポーツが盛んで、児童数が急激に増えた時期があったために体育館が2つあるほどです。

市の2012年度の事業のうち、屋外トイレ整備工事とジュニアアスリート競技力向上事業には、いずれもスポーツ振興くじ助成金が使われました。

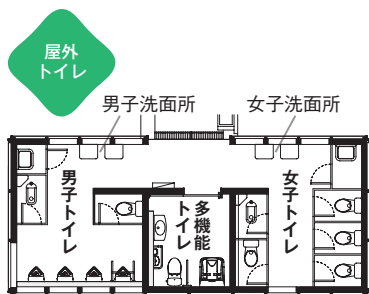
旧西条市では体育館内にトイレを設置せず、古くから屋外トイレが導入されています。改修の対象となったのは、男女共用で和式便器が並び、老朽化が進

スポーツ振興を目的とした
地域開放型の
屋外トイレ改修

西条市立神拝かんばい小学校



写真右側が体育館。グラウンドからは屋外トイレに上がる通路左側でスリッパを履き替えるようになっている。



～ 改修後 ～

入口は左右いっばいにグレーチング(側溝のふた)が施され、水が流せるようになっている。



通路正面は多機能トイレ。入口にはスポーツ振興くじ助成金の印も。



小便器に的のマークのついた男子トイレ。明るだけでなく、ルーバーの快適な風通しで、全く臭いを感じさせない。



手洗いはすべて自動水栓で、ボウルのカラーは男女で変えている。目の高さには広めの鏡が。



天井はポリカーボネート板を使用。十分な採光のため、日中は照明も不要。

DATA

- 竣工年月 / 2013年4月
- 所在地 / 愛媛県西条市神拝甲427
- 児童数 / 794名(2014年)
- 施主 / 愛媛県西条市

んでいた神拝小学校と飯岡小学校の屋外トイレ。男女別に増床改修し、洋式化を進め、さらに多機能トイレを併設しました。休日や夜間は校舎内を閉め切るため、グラウンドからも利用できる地域開放トイレが欲しいというスポーツファンの市民の要望に応えた形です。

市産の杉材を使った 風通しのよい空間へ

両校ともグラウンドと体育館からの両方のアプローチに対応しています。もちろん夜間の出入りも可能で、人感センサーにより、照明がついていれば誰かがトイレにいることが遠くからも見てわかります。

市の木を守り育てる条例により、低層階の建物は木造で作ることになっているため、屋外トイレも、地産の杉材をふんだんに使った木の温かみのある整備が行われました。

2015年度以降の屋外トイレ工事は、全洋式化で計画が進んでいます。えひめ国体開催を控え、西条市内の学校の屋外トイレはより多くの人たちの役に立ってくれることでしょう。

西条市立飯岡小学校



西側から見た屋外トイレ。奥には2つの体育館、右側には広い校庭が広がる。PTA対抗の球技大会などの時期は毎日のように屋外トイレが大活躍しているという。



女子トイレは1ブースのみ、簡単な介助ができるスペースが確保され、きれいな除菌水で便器のボウル面を洗う温水洗浄便座を導入。



体育館からはスリッパに履き替え、校庭からは土足のまま入る。両方からのアプローチが可能な床仕様。



屋外トイレは体育館から出てきた女の子たちにも好評。



女子トイレ。擬音装置は全ブース標準仕様となっている。



～改修後～

南面(図の下)は石鎚山の吹き下ろしがあるため、壁の開口部は上部のみ。洗面とトイレスペースの間には引き戸が入っている。



多機能トイレにはベビーシートも完備。自動水栓の手洗いは2台設置。

DATA

- 竣工年月 / 2012年4月
- 所在地 / 愛媛県西条市飯岡2124
- 児童数 / 394名(2014年)
- 施主 / 愛媛県西条市

男子トイレ。壁の上から入る外光だけで日中は十分明るい。こちらの小便器にも印が。



学校トイレと子どももの健康

「トイレを我慢して体調を崩す子どもたちがいる」という声をよく耳にします。
小・中学校の養護教諭の皆さんにその実態を伺いました。(聞き手/学校のトイレ研究会 中島徳二)

洋式が少なく
休み時間は大行列が

——まずは、皆さんが勤務する学校のトイレの実情を教えてください。



A 小学校養護教諭 現在、小学校に勤務しています。トイレの改修工事を5年前に行ったので今はトイレについて問題は特になく、みんな気持ちよく使って

います。悩みといえば、トイレの掃除。子どもたちがやっていいますが、小規模校で人数が足りず、なかなか細部までではないですね。

B 小学校養護教諭 勤務しているのは創立25年の小学校。トイレに関しては配管の老朽化が問題になっています。風の強い日は特にトイレの下のほうから臭いが立ち上がってきます。掃除をがんばっても、配管までは行き届きません。洋式の大便秘器も数が少なく、和式4に対してたったの1つ。特に低学年は和式が使えないために洋式に並び、短い休み時間では用が足せない子もいます。

C 中学校養護教諭 私のいる学校は創立20年前後ですが、目立った老朽化はありません。トイレの問題としては、トイレ

トペーパーのホルダーへのつ方がわからない子が結構いること。そのため、床に置いてしまうので、不衛生で困っています。
D 小学校養護教諭 昨年30周年を迎えた小学校にいますが、大規模改修も回ってきていないので、トイレはひどい状況。保護者からトイレに関する苦情も



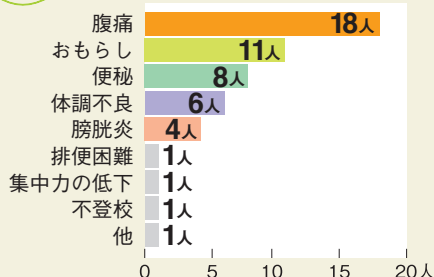
多く寄せられます。ドアの下は腐っていますし、男子の小便器は、ハイタンク式の一斉洗浄方式で臭いがひどく、尿石も多い。年に一度、教職員で高圧洗浄機も使って掃除をしています。臭いなどは構造上の問題で解決できません。洋式が少ないのも大きな問題。和式が6に対して洋式が1ですから、まったく足りません。就学時検診の際は、洋式しか使えない子ばかりで、洋式の前に大行列ができてしまいました。

トイレの臭いに耐えつつ
授業を受けている

E 中学校養護教諭 25周年の中学校にいますが、古いわりにトイレは広くてきれいです。乾式床で、廊下のワックスがけをする際にトイレにもワックスをかけています。ただし、少子化で

Q2

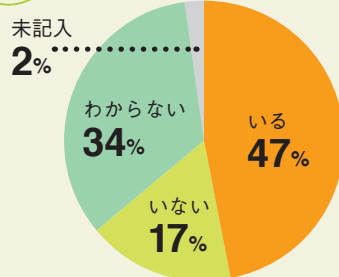
トイレを我慢することで起こる具体的な症例はどのようなことですか？(複数回答)



トイレの我慢で圧倒的に多いのは腹痛。そのほか便秘や膀胱炎になる子も。

Q1

あなたの学校のトイレで、トイレを我慢する児童や生徒はいますか？ ※小便・大便含む



小学校や中学校でトイレを我慢する児童や生徒は50%近くにも達している。

学校トイレに関する養護教諭アンケート

- 調査目的: 学校トイレと子どもの健康面との相関性を明らかにする
- 調査主体: 学校のトイレ研究会
- 調査期間: 2013年2月～(以降もデータ取得中)
- 調査対象: 公立小・中学校、主にトイレを管理している自治体の養護教諭の皆さま48名

かつて学年ごとに5クラスはあったのが、今は学校全体で6クラス。生徒数に比べてトイレが多すぎるので、掃除が行き届かないのが悩みです。

F 小学校養護教諭 小学校に勤務していますが、校舎は築40年ほどの古い4階建て。ドアの下のほうが腐っていますし、暗いし、水漏れもあります。特に臭いはひどく、掃除をしても芳香剤を置いてもどうにもなりません。トイレの前の教室の子どもたちは本当にかわいそうで、臭いに耐えながら勉強をしている状況です。

腹痛の99%は トイレの我慢が原因

——トイレを我慢して、お腹が痛くなる子もいますか。

E います。保健室に来たら「職員トイレを使っているから、行ってきなさい」と言います。

D 休み時間に大をするとからかわれるから、わざわざ授業中に行く子もいます。授業をエスケープしたいわけじゃなくて、ゆっくりと落ち着いてトイレに入りたいんですね。

B そうそう、我慢しちゃうからお腹が痛くなる、という子は多いですね。本人は「自分は大病だ」という勢いで保健室に来ますけれど、様子を聞いてみると、だいたいはトイレの我慢が原因。だから、「出ないと思って、トイレに行ってきたらごらん」と指導します。すると、だいたいで腹痛も治る。私の実感として99%の腹痛は大便の排せつで解消されています。



E 子どもたちは、大をしたことがばれるとからかわれる。だから、したがない。男の子の中には、流すと音がして大をしたことがわかってしまうせいか、流さないで出てきてしまう子も結構います。だから、「授業

時間でも我慢しなくてもいいよ」と言っています。逆に「トイレは休み時間に行くものでしょう」と決めつけることは、子どもに対して体罰になる気もしますね。

——トイレのどこを改善してほしいですか。

B 配管はすぐにも改善してほしいですね。

D とにかく洋式化を進めてほしいです。子どもはよくケガをします。以前、足をケガした子が出たときに、和式が使えないので非常に不便でした。

——トイレが改善されたら、子どもたちにどんな影響があると思いますか。

F きれいになったら、用を足しに行くだけの場ではなくなり、子どもたちのコミュニケーションを図る場としての役割も果たせるようになると思います。

A それはありますね。私のいる学校は、トイレが新しくきれいですから、高学年の女の子たちは髪をとかしながらよく数名で話をしていますし、男の子も、誰か一人がトイレに行くのと、「僕も」「僕も」といつて数名が行く。トイレに行くこ



聞き手 中島徳二

とを楽しんでいます。

——逆に、古いトイレの場合は行きたくないのですね。

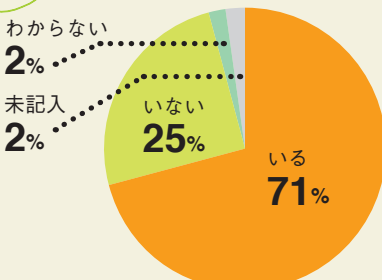
E 私自身の子どもがそうです。男の子ですが、小学校のトイレは使いません。急いで家に帰ってきたかと思うと、トイレに直行しています。学校のトイレは入口がウエスタン調ドアで、中が丸見え。恥ずかしくて入りたがらないようです。

——小学校は、目が届くように入口をオープンにしているところが多いのでしょうか。でも、子どもたちは恥ずかしがる。今後の課題かもしれません。

今日の座談会で感じたのは、学校側や教育委員会も限られた予算の中で四苦八苦している状況があるということ。すぐの対応は難しいかもしれませんが、皆さんで力を合わせてコミュニケーションを深めながら、少しずつ児童や生徒のために前進できればと思います。本日はありがとうございました。

Q5

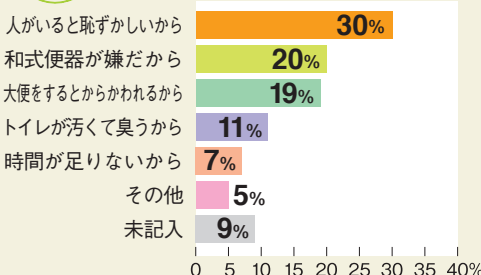
保健室の対応で、排せつに関することが原因で症状を訴えてくる児童や生徒はいますか？



排せつに関することが原因で保健室を利用する子が7割以上と圧倒的。

Q4

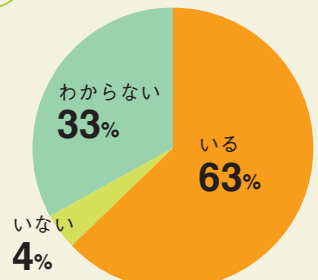
Q3で嫌だという理由は何だと思いますか？
(複数回答)



「和式便器が嫌だから」という理由も。設備改善が求められる。

Q3

学校で大便をすることを嫌だという児童や生徒はいますか？



3人に2人の児童や生徒が、小学校や中学校での大便を嫌がっている。

やってよかった！ 学校のトイレ改修

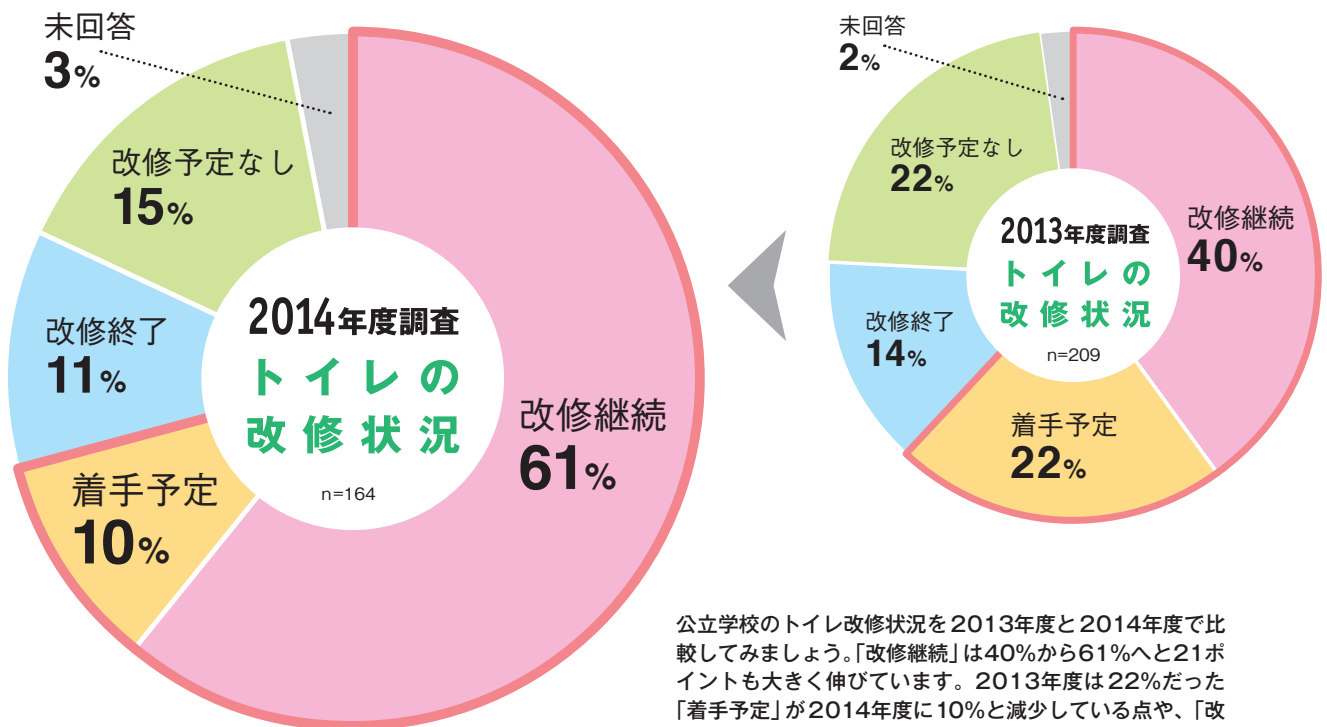


学校のトイレ研究会実施
2014年度全国自治体学校
トイレアンケート調査

- 調査概要 ■対象=全国1,742自治体 ■回答数=164自治体
- 調査方法 教育委員会施設課宛て郵送によるアンケート調査
- 調査時期 2014年9月～10月中旬

学校のトイレ改修はどの程度進んでいるのでしょうか。また、トイレ改修の効果としては、どのようなことが挙げられるのでしょうか。今回は、全国自治体が管轄する公立学校のトイレ改修状況や、改修前後の深刻度と改善度、長寿命化改修へのイメージなどについて伺いました。

トイレ改修への着手が増え、多くの自治体で本格的に進行中



公立学校のトイレ改修状況を2013年度と2014年度で比較してみましょう。「改修継続」は40%から61%へと21ポイントも大きく伸びています。2013年度は22%だった「着手予定」が2014年度に10%と減少している点や、「改修継続」と「着手予定」を足した数字が62%から71%と大きく伸びている点、さらに「改修予定なし」が7ポイント減少している点から見ても、改修予定段階から徐々に実行段階へとシフトし始め、多くの自治体がトイレ改修に積極的に取り組んでいることがわかります。

Q.最近10年間のトイレ改修の状況は？

まず、各自治体における小・中学校のトイレ改修状況を2013年度と比較してみました。「改修継続」と「着手予定」の合計で昨年度は62%の自治体で取り組みがあったのに対し、今年度は71%。これに「改修終了」の数字を加えると、最近10年間で改修に取り組んできた自治体は、昨年度で76%、今年度で82%と着実に増えているのがわかります。実際に改修を行った小・中学校について、改修前後の課題評価を、改修前の深刻度と改修後の

今回は、全国自治体が管轄する小・中学校でのトイレ改修状況、およびトイレ改修前の深刻さや改修の改善評価について調査を行いました。さらに、文部科学省の長寿命化改修についてのイメージも伺っています。

82%の自治体が
最近10年間に
トイレ改修を実施へ

今回も、全国自治体の皆さまのご協力により、「2014年度全国自治体学校トイレアンケート調査」の結果がまとまりました。多くの方々に御礼申し上げます。ありがとうございました。

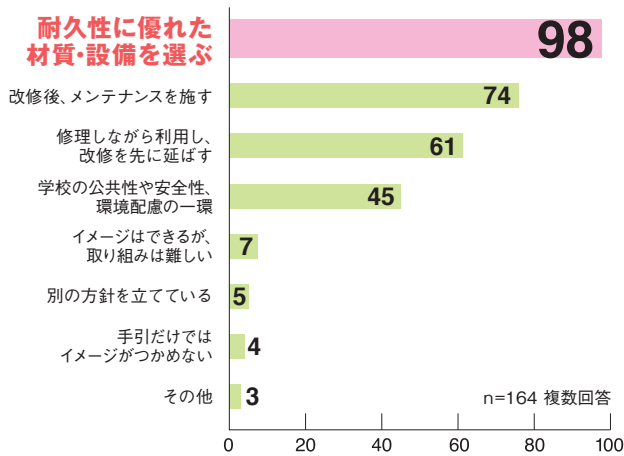
トイレ改修後の評価として、衛生面はもちろんトイレの我慢の減少も

Q. 学校トイレの改修前後の課題と改善度は？

改修前に深刻だった臭いの問題や菌の繁殖に関して、改修後の改善度も高い結果となりました。さらにその他改修してよかったことでは、「清掃のしやすさ」「児童がトイレを我慢しなくなった」「清潔になり、防災拠点機能が向上した」などの評価が高くなっています。反省点・課題としては「修繕時のコスト、メンテナンス方法の周知不足」「和式便器が多い」「夏休み中の工事では壁や床の改修まで行えない」などがありました。



長寿命化改修のイメージは、「耐久性ある材質・設備を選ぶ」

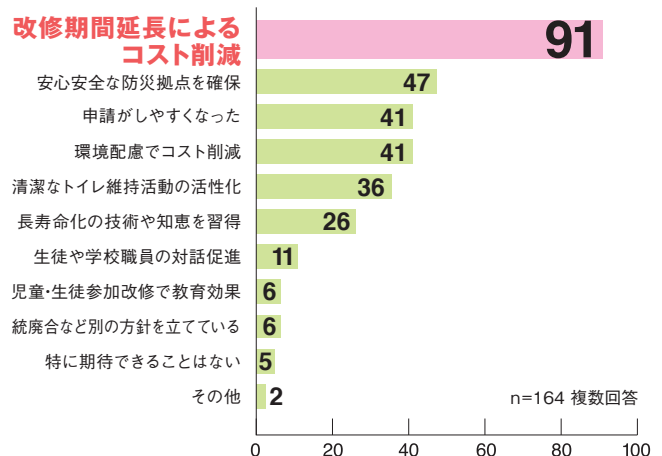


Q. 学校の長寿命化改修への具体的なイメージは？

長寿命化改修への具体的なイメージは「耐久性に優れた材質・設備を選ぶ」が98件と最多でした。次いで「寿命を延ばすためのメンテナンスを施す」となっており、具体的な改修イメージを持っている自治体が多いことがわかりました。

学校の長寿命化改修に対するイメージや長寿命化改修施策に関して伺った結果を見ると、多くの自治体がトイレ改修をかなり具体的にイメージされている上、改修に対する関心の高さも伺い知ることができました。学校トイレの老朽化・故障しやすい箇所もかなり具体的に見えてきました。改修をする際に参考にする意見は「学校教員」が大多数というところで、学校トイレ改修においては教育の現場との緊密なコミュニケーションが重要であることもはっきりしました。いずれの調査結果についても、学校のトイレ研究会の今後の研究活動に活かしていきたいと考えています。

施設の長寿命化への期待は「コスト削減」



Q. 長寿命化改修施策のよい点・期待できる効果は？

長寿命化改修でよい点、期待できる効果は「改修期間を延ばすことによるコスト削減」という声が圧倒的な結果となりました。コストについてはトイレ改修における一番の課題に挙げられており、自治体の関心度も高いことがわかります。

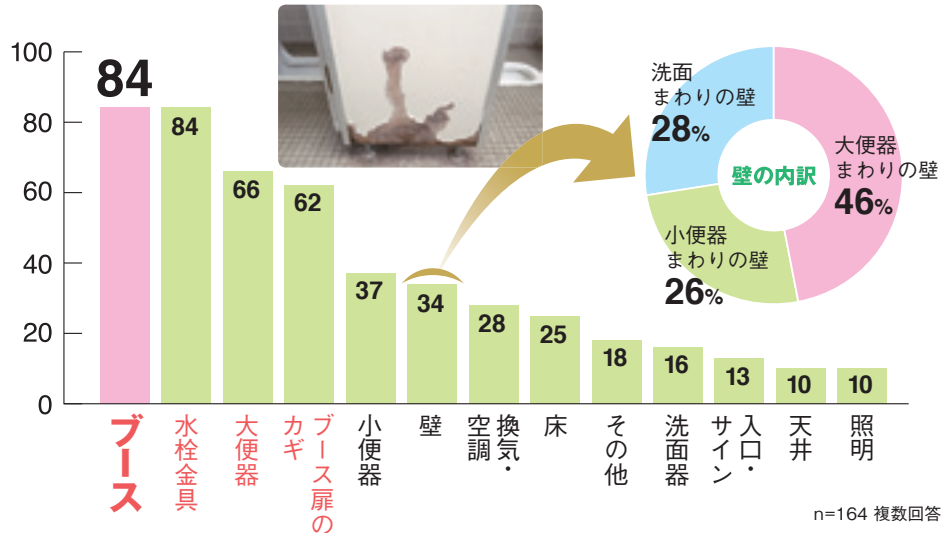
トイレ改修を具体的にイメージし、改修への関心度も高い

改善度で比較してみたところ、「臭いの問題」「トイレ内の菌の繁殖」といった衛生面で最も深刻度が高かった課題が、トイレ改修後の改善度として高く評価されています。これは、学校数の多い自治体ほど顕著にあらわれています。

「ブース」と「水栓金具」が最も老朽化・故障しやすい

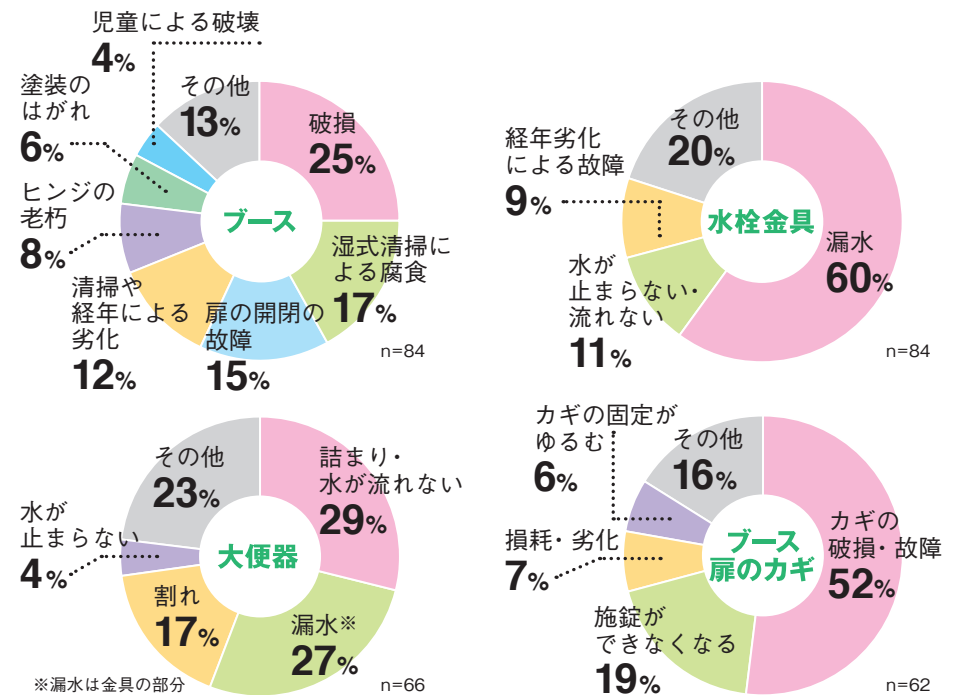
Q. 学校トイレで老朽化・故障しやすいところは？

学校トイレで老朽化・故障しやすい箇所という設問に対する回答は、「ブース」と「水栓金具」が84件を占め、最も高い数値となりました。次いで「大便器」(66件)、「ブース扉のカギ」(62件)となっています。壁の老朽化の内訳を見ると、「大便器まわりの壁」が46%と、ほぼ半分近くを占め、「洗面まわりの壁」「小便器まわりの壁」が続いています。

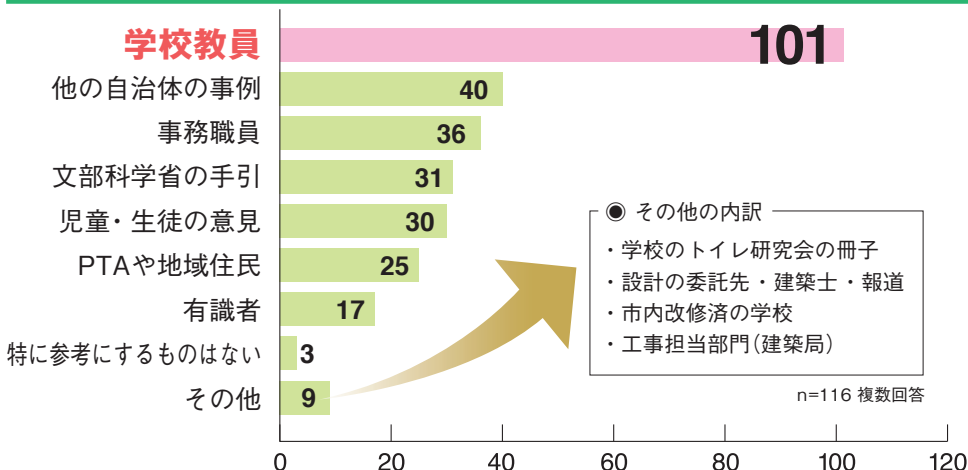


上記グラフの上位4カ所の具体的状況

先の調査で上位に入った「ブース」「水栓金具」「大便器」「ブース扉のカギ」の内訳のフリーコメントを円グラフにまとめてみました。ブースでは「破損」が25%で1位となり、「湿式清掃による腐食」「扉の開閉の故障」と続いています。水栓金具では「漏水」が60%と圧倒的です。大便器では「詰まり・水が流れない」「漏水」「割れ」がそれぞれ高い割合となっており、この3つで全体の7割以上を占めています。ブースの扉やカギでは、カギの破損・故障が過半数を占めました。



自治体の90%近くが「教員の意見を参考にする」



Q. トイレ改修をする際に参考にするものは？

改修をする際に参考にする意見や事例ということで、最も多かった回答が「学校教員」(101件)で、圧倒的多数となりました。次いで、他の自治体の事例、事務職員が多くなっています。学校施設作りということでは、自治体、設計事務所、学校、PTA、地域、さらには児童・生徒とのコミュニケーションが重要な役割を担っているといえるでしょう。

特別支援学校の
改修事例
2015



幼児用、自動洗浄などのさまざまな形状の小便器が並ぶ小学部トイレ。壁はメラミン不燃化粧板を使用。

あらゆる器具を揃えたトイレは
自立のための学習スペース
大阪府では知的障がい支援学校の児童生徒増加と、卒業後の社会的自立
に対応するため、4地域で新校を整備。そのうちの二つをレポートします。



通学バスが停まる場所のすぐ目の前にもトイレを設置。

01: 大阪府立西浦支援学校 (大阪府羽曳野市)



レバー付きの幼児用腰掛式大便器。長いレバーは小さな力でも流す練習が可能。



幼児用便座付き大便器を設置した小学部低学年用トイレ。ブースはカーテンでゆるやかに仕切り、介助のしやすさとプライバシーに配慮。

大便器は洋式化、床は乾式
安心・安全面に特に配慮

大阪府立西浦支援学校は、統合によって閉校になった高校の施設を活用して整備されました。築約50年経っていた校舎は改修して中学部と高等部に。既存の校舎では、蹴上げなどサイズが合わないため、小学部は同じ敷地内に増築されました。

府教育委員会の内藤孝彦主任指導主事は、今回のトイレ整備にあたって、次のような方針を取ったと言います。

「和式便器がほとんどでしたので、家庭に合わせ洋式化を進めました。床は、掃除がしやすく感染症対策にも効果的な乾式清掃の床に。何より安心・安全面に特に配慮しました。」

また、車いす利用の方々にも対応するため、基本的に横開きで軽量のドアを採用するなど、細心の注意を払うようにしました」

トイレは子どもたちへの
重要な生活指導の場

西浦支援学校の小学部は、教室から直接トイレに入れるよう



どのトイレにも大きな流しを設置。大切な歯磨き指導や、感染防止の手洗いに使用する。水栓金具もさまざま。



小学部の低学年用トイレの廊下側の入口は、左右の角を黄色の緩衝材でくるんで視認性と安全性に配慮している。



掃除用流しとシャワーは近くにあると、子どもの排せつ指導時に重宝する。壁はトイレと合わせ、浴室用メラミン不燃化粧板。



小学部中学年トイレ。軽度から重度まであらゆる子どもの障がいに対応するため、バーの位置もブースによって異なる。



小学部中学年トイレの温水洗浄便座付き大便器。ふたの開け閉め練習も。



小学部低学年トイレの中庭側入口。子どもたちの手が届かない高い位置に鍵がつけられている。

01: 大阪府立西浦支援学校

(大阪府羽曳野市)

特別支援学校の
改修事例
2015

なっています。

「トイレや洗面台は子どもたちにとって非常に大切な生活指導の場です。だから、教室からすぐに行けるようにしました。手を洗うにしても、『洗面台の前に立つ』『ハンカチを出す』といった一つひとつの動作を指導し、繰り返し教えます。社会に出たときに困らないよう、水栓金具や便器もいろんなタイプを用意して、どんな場面でも自立してトイレに行けるよう指導していきます」(内藤主任)

また、トイレのブースは一つひとつがゆったりとしたつくり。教員も一緒に入れるようにとの配慮からです。同校の西村誠三教頭は言います。

「支援学校で常に課題となっているのは、安全とプライバシー保護の両立の問題です。安全に見守るために、かつてはトイレにドアがなく、オープンな空間になっていました。今はプライバシー保護の観点から、スペースを広く取って、ドアをつけ、教員と一緒に入れるよう、少しずつ改善されてきています」

大便器とシャワー、洗面台等と一緒にしたブースも多く設置。子どもたちの汚れた衣類は



中学部の廊下。車いすにも対応できるように広々としており、トイレとの段差はない。



中学部の小便器の洗浄方式も自動洗浄からフラッシュバルブ式までさまざま。



中学部・高等部用の男子トイレ。洗面台の水栓金具は3種類。それぞれ先生から使い方が指導される。



小学部
低学年
トイレ

上下の出入口は教室に、左側は廊下につながっている。中に入ると、ゆるやかに男子と女子に分かれている。



既存校舎
高等部
女子トイレ

既存校舎
高等部
男子トイレ

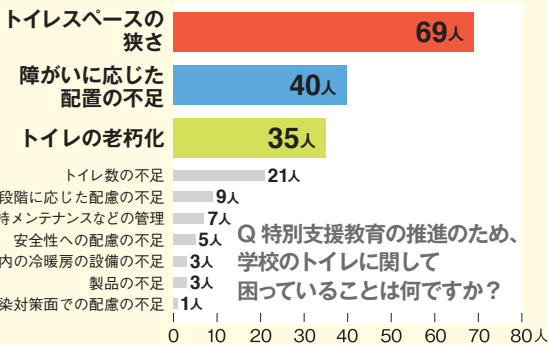
男子トイレは大便秘器ブースの両側に洗濯室とシャワースペース。女子トイレは教育的観点から和式便器も設置。



中学部・高等部用の女子トイレ。トイレ指導から手洗い指導までできるブース。右側にはシャワー室も併設。



中学部・高等部女子トイレ。扉はすべてスライド式。ブースの壁は天井まで立ち上げて。



特別支援教育の現場で最も困っているのはスペースの狭さ。介助が必要な子は多いため、広いスペースが必要となる。また、障がいに応じた配置が不足していると答えた人も多い。例えば、右側に障がいがある場合は、左利き用扉の設置などの配慮が望まれる(アンケート調査、P20を参照)。

「トイレは改良が重ねられていくものの、課題は残されている」と西村教頭は語ります。

「支援学校では子どもたちが個室ブースにこもってしまうこともあります。外からも教員が開けやすいドアの鍵の開発が望まれます。もう一つ、小・中学校

「トイレは改良が重ねられていくものの、課題は残されている」と西村教頭は語ります。

「支援学校では子どもたちが個室ブースにこもってしまうこともあります。外からも教員が開けやすいドアの鍵の開発が望まれます。もう一つ、小・中学校

すぐに洗えますし、子どもたちが再び便意を催したときの利用にも対応しています。必要な器具がすべて近くにあることで、安全への配慮ができ、トイレ指導もやりやすくなっています。

あらゆる障がいを想定し誰にもやさしい施設に

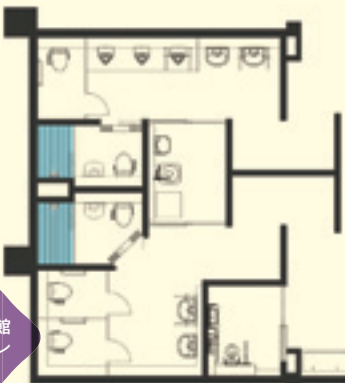
体育館トイレの中央部。排せつを練習中の子どもも少なくないため、掃除用流し、汚物流し、洗濯機は、支援学校のトイレには欠かせない。



体育館の多機能トイレ。大便器まわりの棚の高さが均一で、車いす使用時の圧迫感を軽減。



体育館のトイレ出入口。広々としており、行事の際、車いすでもゆったり通れる。



体育館
トイレ

掃除用流し、汚物流し、洗濯機のあるブースがトイレの中央に。男子も女子も共同で使えるようになっている。

01: 大阪府立西浦支援学校

(大阪府羽曳野市)

特別支援学校の
改修事例
2015



体育館の男子トイレ。洗面台と小便器を仕切って、プライバシーに配慮。水栓金具も2タイプ。



大便器と手洗い、シャワーが一体になったブース。排せつ指導時には、ブース内で一通りの対応が可能。

DATA

- 竣工年月 / 2015年2月
- 所在地 / 大阪府羽曳野市 西浦2丁目
- 児童生徒数 / 291名(5月現在)
- 施主 / 大阪府教育委員会
- 設計 / 浦辺設計・新日本設備計画設計共同企業体
- 施工 / NIPPO・日比谷総合設備(株)大阪支店

等も含めて学校トイレの課題に
なっているのは、性同一性障
がいの子どもたちへの対応です。
例えば、男子でこの障がいがあ
る子どもは、男子トイレに入る
のをためらいます。かといって、
女子トイレに入ること現実的
には厳しい。現状は、女性の先
生がつきそって職員用トイレを
使わせたり、多機能トイレで対
応しています。ただし、子ども
たちのトイレではないトイレを
使うことは、快適とはいえませ
ん。性同一性障がいであっても、
誰にも言えず、一人で悩んでい
る子どももいるでしょう。男女別
のトイレの横に『誰もが使える共用
トイレ』の設置が求められてい
るのではないのでしょうか」
全児童生徒の快適な学校トイレ
のために、今、さらなる改善
が望まれているのです。

幼稚園・保育園の 改修事例 2015



地域支援により幼稚園を新設。
開放的で明るい幼児用トイレ

築1960年代の幼稚園・小・中学校一貫教育の古い校舎を
幼稚園・小学校の校舎に建て替え。子どもたちの様子も変わりました。

01: 東京朝鮮第六幼初級学校 (東京都大田区)

成長に合わせて大きさを
変えた大便器や小便器。
小便器の足元には、防臭
効果の高い陶板を採用。
小便器の下に空間がある
ので掃除も楽。



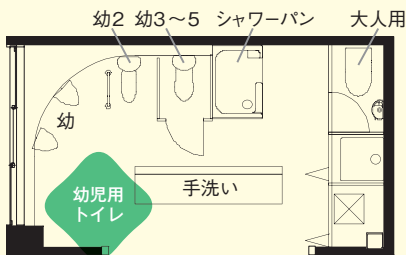
廊下とトイレの床を一体化。限られた空間を広々と見せている。



爽やかなブルーを基調にモザイクタイルを使ったかわいい空間。保護者からの評判もよい。



子どもからは見えないけれど、大人からは見える高さのブース。



限られたスペースに必要な設備を効率よく配置。職員の要望によるシャワーパンは食べこぼしの際などにも重宝。



洗面台の近くには子どもたちの歯ブラシが置かれ、食後は一斉に歯磨きをする。



校舎は日本人との交流の場としても活用されている。

DATA

- 竣工年月 / 2014年8月
- 所在地 / 東京都大田区
千鳥2-3-15
- 児童数 / 19名
(2014年度 幼稚園のみ)
- 施主 / 学校法人東京朝鮮学園
- 設計 / RIN 建築設計事務所
- 施工 / 白石建設

「幼稚園主任・尚明淑さん」
神面により影響を与えました」

在日コリアンの人々にとって学校は教育の場であり、地域のコミュニティの中心でもある大切な場所。新校舎設立にもその思いが込められ、地域の方々から大きな支援が寄せられました。生まれ変わった校舎に子どもたちの表情には大きな変化が。「トイレでは、以前は幼稚園児も大人用の和式大便器を使っていたので、トイレを怖がり、おもしろいをする子どもが多くいてかわいそうでした。子どもにとって怖い場所が一つでもあると大きな心の負担になります。今はそれがなくなり、おもしろもゼロに。建て替えは子どもたちの精神面によい影響を与えました」

おもしろをする子が
一人もいなくなった

幼稚園・保育園の
改修事例
2015

子どもの成長段階に配慮した
充実の器具・設備を分散配置

待機児童対策としてオフィスビルに保育園を新設するケースが増えています。オフィス仕様の空間でどのように保育園のトイレを設置しているのかレポートします。



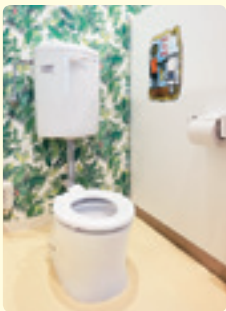
4～5歳児用トイレ。最も汚れやすい男の子の小便器周りには、抗菌、防臭効果のある光触媒技術の陶板を採用。

02:

社会福祉法人
高砂福祉会

江東湾岸
サテライトナーサリースクール有明
(東京都江東区)

子どもたちを見守れるよう、トイレには室内に向けて窓がつけられている。



座りやすい幅の幼児用大便器。レバーも回しやすく、幼児でも使いやすい。



「いろんな色を子どもたちに覚えてほしい」と彩り豊かな空間に。通常学校の理科室で使われる水栓金具を用い、狭いスペースでも手洗いが可能。

制約の多い空間を
トイレ優先で改修

東京都江東区の豊洲地区では、待機児童対策として保育施設の確保を急いでいます。そこで豊洲地区の「分園」と、約4キロ離れた有明地区のオフィスビル内の「本園」とをバスで結ぶサテライト型の認可保育園「江東湾岸サテライトナーサリースクール有明」を新設しました。保護者は駅近くに作られた「分園」で子どもを送り迎え。子どもたちはバスで「本園」に移して保育し、夕方、再びバスで分園に戻るという全国初の試みです。

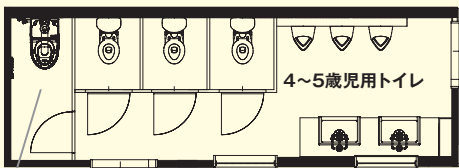
本園は、オフィスビルの3階にある約1000平方メートルの広いワンフロア。222名もの子どもたちを保育できます。

オフィススペースを保育スペースに改修するにあたって苦労したのは水まわり。大人数の園児が使うには、水まわりの設備が十分ではなかったため、元々あった配管の位置に新しく配管をつなげるなど大がかりな工事が行われました。また、トイレの臭い対策にも心を配りました。

「ここはトイレに開口部がなく、



引き戸を開ければ、保育室とひとつながりになる0～2歳児用のトイレ空間。おもらしなどの対応ができるように、幼児用シャワーパンや幼児用バスも一列に配置した使いやすいレイアウト。



大人用トイレ

大人用トイレも設けて

幼児用
トイレ

就学前の子どもたちなのでプライバシーにも配慮し、ブースを設置。練習のため大人用も併設。



幼児用
トイレ

死角を作らない配置

死角を作らないよう横一列に配置し、目が届きやすい。保育室とつながっているので子どもが一人でも行ける。

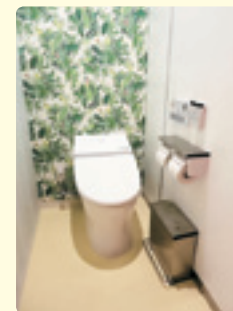


保育室の隅に設置された洗面台も成長に合わせて使いやすい高さに。

0～2歳児用トイレには沐浴のほか簡単な洗濯にも使える手すり付きの幼児用バスを設置。奥には汚物流しを併設。



園の入口近くにあるオストメイト配慮設備付き多機能トイレ。シックなクロスが印象的。



年長用トイレには公共施設で困らないよう、練習のために大人用大便器も設置。もちろん、スタッフも利用。

DATA

- 竣工年月 / 2014年4月
- 所在地 / 東京都江東区有明
3-7-26 有明フロンティア
ビルB棟3階
- 児童数 / 158名 (2014年)
- 施主 / 社会福祉法人 高砂福祉会
- 設計 / 龍美一級建築士事務所
- 施工 / 竹中工務店、須賀工業

「最近では、さまざまな園のお子さんが見えて園もグローバル化しています。従来の日本的常識にとらわれて、おとなしい色でまとめるのではなく、もっと自由な発想で考えたほうが、トイレは楽しくワクワクした場所になると思います」

換気扇に頼ることになるため、臭い対策として、防臭効果のある光触媒の陶板を採用したりしました。臭いがあると、子どもたちが行きたがらなくなりますが」と語るのは同園を運営する高砂福祉会の篠塚弘子副理事長。

篠塚副理事長は、「トイレは子どもたちが喜んでいく場であるべき」という思いから、子どもたちができるだけ使いやすいように、器具や設備は成長ごとに分散して配置。ジャンクルがモチーフのにぎやかな空間にするなど工夫を凝らしています。

学校のトイレ研究会とは？

毎年1,000校以上の小中学校でご採用いただいております

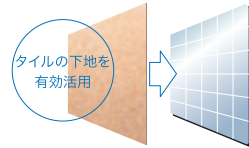
AICA

アイカ工業株式会社
設計推進部

〒176-0012
東京都練馬区豊玉北6-5-15
03-5912-2863
http://www.aica.co.jp

「セラール」は3ミリ厚のメラミン不燃化粧板で、トイレブースやカウンタートに使用されるメラミン化粧板や、鉄扉や窓枠等を仕上げる化粧フィルムオルティノと同柄が揃うことが特長です。トイレ壁の改修工事には環境に配慮した「セラールONタイプ」もありません。タイルの上から貼るだけの工法で「工期短縮」「廃材削減」「騒音低減」を実現します。

サインやロゴ・イラストなどのデータを壁面にできる「セラールグラフィカタイプ」も好評です。



堅牢性・清掃性・意匠性に優れた壁装材「セラール」

子どもたちが喜ぶ、明るく、入りやすい学校トイレを提案します

よい品は結局おトクです

オカムラ

株式会社岡村製作所
建材営業部 開発部

〒100-0014
東京都千代田区永田町2-13-5
赤坂エイトワンビル
03-5501-3396
http://www.okamura.co.jp/

学校向けトイレブース「ウェイプレットES」は、ドアが円周上をスライドするので、和式便器と同じスペースでも洋式便器に当たらない省スペース設計。内引きで、ドアをよけることなく開閉でき、出入りもスムーズ。車椅子対応タイプも品揃え。新築はもちろんですが、トイレの洋式化改修工事に最適です。

また、清掃用具をきれいにきちんと保管するための清掃用具ハンガー「カケット」も、きれいなトイレづくりの必需品です。



ウェイプレットがユニバーサルデザインアワード金賞を受賞



学校トイレの洋式化に最適なトイレブース

今あるものをそのまま活かす、エコメンテナンス

日常生活に不可欠なトイレ。弊社は「使う人の身になったとき、何を提供できるか」を、考え方の原点としております。

トイレを蘇らせる特殊清掃に加え、施工後の実技研修を通して、トイレをキレイに維持するメンテナンスアドバイス等も行っております。

さまざまな制約の中でも、学校のトイレを変えたいというニーズを実現するクリーニング工法です。

トイレの「キレイ」を創る会社

根本的クリーニング&メンテナンスで学校トイレの“今”と“これから”を変える

臭い・汚れを原因から改善
施工後の清掃研修まで可能
今を活かしたエコ改修

キレイなトイレに蘇るクリーニング工法

さわやかなトイレ環境を創造する
株式会社 木村徳太郎商店

株式会社木村徳太郎商店

〒112-0004
東京都文京区後楽2-5-1
03-3811-2919
http://www.toku-kimura.co.jp/

編集後記

18号研究誌をお読みいただき、ありがとうございます。今号をご覧になって、何かお気づきのことはありませんか？

全体を通して、学校トイレはさらに進化している！という思いを強くしました。

トイレの中に「木材」を使用し、自宅にいるような安心感と温もりのある空間が増えました。学校ならではの視点で、利便性と遊び、教育を調和させた水まわりとなり、従来の学校トイレのイメージが一新したように思います。

新築や改修に木材活用を推奨する国の取り組みの影響もあるとは思いますが、汚くて臭く、用を足すためのだけの「トイレ」が、生活や学習、子どもたちの交流の場として「全体」に組みこまれたという印象です。

また、学校は「トイレ」だけではなく、ご承知の通り、手洗い場や保健室、地域の方が利用する場所など、重要な水まわりが一つの学校内に数多く存在しています。子どもたちが安心して心身を整え、楽しく夢を育めるよう、トイレを含む水まわりを将来にわたってきれいに長く維持していただくための活動を、研究会一同、今後も続けてまいりたいと思います。

アンケートにご協力くださった皆様、取材でお世話になった皆様、友達と遊ぶのを我慢して撮影のモデルさんになってくれた児童。制作に携わってくださいましたすべての皆様に深く御礼申し上げます。

学校のトイレ研究会
古川 浩代

学校のトイレ研究会は、学校のよりよいトイレ環境づくりをめざして、1996年に発足しました。以来、各社の情報力、技術力を活用しながら、調査・研究・啓発活動を継続しています。

子どもたちが安心して学べるトイレ環境のリモデル

あしたを、ちがう「まいにち」に。

TOTO

TOTO株式会社
販売統括本部
リモデル営業推進部

〒105-8305
東京都港区海岸1-2-20
汐留ビルディング24階
03-6836-2166
学校トイレに関する情報・
カタログはこちら
<http://www.com-et.com>

「パブリックコンパクト便器・フラッシュユニット式」は、TOTOが培った便器洗浄技術で実現したパブリックの新定番。タンク式と同じ給水口径15Aで、連続洗浄が可能になりました。

また、一般的な大便秘と比較して奥行き60mmもコンパクト。限られたスペースにおすすです。さらに施工もラクラクで、掃除口付きタイプも品揃えしています。TOTO「和洋リモデル工法」(階下に影響を与えない1フロア工事・2日間施工)と合わせ、学校トイレの改修におすすいたします。



リモデルにおすすめ。
「パブリックコンパクト便器・フラッシュユニット式」
「和洋リモデル工法」

トイレの後の手洗いに薬用石けんの習慣を

洗浄と衛生管理に快適ソリューション



株式会社ニイタカ

〒532-8560
大阪市淀川区新高1-8-10
03-6395-2717
<http://www.nitaka.co.jp>

「学校のトイレの快適化・改善の取り組み」に賛同し、初めてご提案をさせていただきました。

感染症や食中毒の主な原因は、不十分な手洗いです。そのため、「トイレの後は必ず薬用石けんを使って手洗い」の習慣付けがとても大切と考えます。

弊社は殺菌・消毒用石けん液(医薬部外品)等の薬剤・洗浄剤の提供・啓発活動を通じて、学校のトイレの衛生レベル向上に貢献してまいります。

殺菌剤・塩化ベンザルコ
ニウム配合の「薬用ハン
ドウォッシュ BG」5kg。



石けんカス発生が少ない
薬用手洗い石けん液

快適でメンテナンスしやすい学校トイレのために



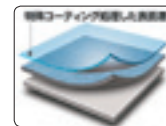
ロンシール工業株式会社

〒130-8570
東京都墨田区緑4-15-3
03-5600-1821
<http://www.lonseal.co.jp/>

学校トイレの快適化のために、研究会発足当時からご提案をさせていただいています。

2007年には業界初となるトイレ用床材「サニタリウム」を発売。厚い防汚表面層が尿によるシミ・汚れや、トイレ洗浄剤、カビ取り洗浄剤による変色の床材(ビニル床シート)です。

さらに、ワックスなしでも汚れが付きにくく、ついた汚れも取れやすいため、メンテナンスが簡単。乾式清掃に最適です。



木柄も好評発売中
「トイレ用床材「サニタリウム」

学校のトイレ研究会研究誌 第18号

●編集・発行
学校のトイレ研究会

アイカ工業株式会社 株式会社岡村製作所
株式会社木村徳太郎商店 TOTO株式会社
ロンシール工業株式会社 株式会社ニイタカ

●事務局

〒105-8305
東京都港区海岸1-2-20 汐留ビルディング TOTO株式会社内
TEL: 03-6836-2166 FAX: 03-6836-2221

●発行日

2015年(平成27年)6月29日

●編集委員

アイカ工業株式会社 西尾良治 菅井隆博 安井真由子
株式会社岡村製作所 齋藤孝則 中島徳二 井上 豊
株式会社木村徳太郎商店 遠藤 茂 木村基治
TOTO株式会社 河村 浩 天津和也 古川浩代
ロンシール工業株式会社 西本真治 細谷地政人 井上沙織
株式会社ニイタカ 古里宏司

●制作

榎林次郎 酒井美穂(共同印刷株式会社)

●編集協力

柴山幸夫(有限会社アクト) 小川真理子(クロロス)

●デザイン

斉藤直樹(ベリーマッチデザイン)

●撮影

鶴澤昭彦(有限会社スタジオ・パワー) 石井明和

●調査分析担当

吉丸滋美 村田真美(共同印刷株式会社)

●印刷・製本

共同印刷株式会社

●表紙写真

新潟県糸魚川市立糸魚川小学校トイレ(P3~6掲載)

* 無断で本誌の全体、または一部の複写・複製・掲載を禁じます。
* 本誌の著作権はすべて「学校のトイレ研究会」に帰属します。

学校のトイレ研究会研究誌

トイレが変わる、トイレで変わる

学校トイレの 挑戦!

学校のトイレ研究会

当研究会は学校トイレの実態をソフト・ハードの両面にわたって調査・研究することにより、児童・生徒が安心して使える清潔で快適なトイレを具体的に提案・普及していくことを目的に、トイレ関連企業により1996年11月に発足いたしました。発足以来、毎年研究誌を発行し、各種講演会を実施するなどの活動を継続しています。



学校のトイレ研究会 研究誌

学校のトイレ研究会は発足以来、学校トイレづくりの調査・研究の成果をまとめた研究誌を毎年、発行しています。ホームページで閲覧、取り寄せができます(無料)。



学校のトイレ研究会 ホームページ

<http://www.school-toilet.jp>

学校のトイレづくりに役立つ、さまざまな情報を掲載しています。

- 学校トイレ改修のさまざまな事例
- トイレづくりのポイント
- 清掃やメンテナンスの方法
- トイレ整備にかかわる補助制度
- 全国の自治体を対象にした調査結果